

## 2024年度 教職員の自己評価集計結果とその考察

藤認定こども園  
藤幼稚園・藤保育園

A：よく出来ている、 B：まあまあ出来ている、 C：あまり出来ていない、 D：出来ていない

### I 保育の計画性

		A評価	B評価	C評価	D評価
園の教育方針等の理解	園の教育方針や教育目標を理解する	35.1%	64.9%	0%	0%
教育課程の編成	園の教育課程を理解し、それに基づいて保育の計画を立てる	16.0%	80.0%	4.0%	0%
指導計画の作成	指導計画は幼児の発達に即して幼児期にふさわしい生活を展開できるように具体的に作成する	13.0%	87.0%	0%	0%
環境の構成	幼児が主体的に関わりたくなるような素材や遊具を考えて環境を構成する	12.5%	75.0%	12.5%	0%
	幼児が自ら活動を展開していけるような場や空間を構成する	16.1%	71.0%	12.9%	0%
	楽しい雰囲気の中で安心して遊びこめる環境を構成する	28.1%	65.6%	6.3%	0%
	幼児の発達や生活を見通した環境を構成する	18.8%	68.8%	12.5%	0%
評価・反省	自分の保育を評価・反省することで、次の保育に生かす	34.3%	60.0%	5.7%	0%

※数値の赤字は前年より減少、青字は前年より増加となります。

「園の教育方針等の理解」では、「よく出来ている」(以下、「A評価」という。)と「まあまあ出来ている」(以下、「B評価」という。)  
「あまり出来ていない」(以下、「C評価」という。)  
「出来ていない」(以下、「D評価」という。)のうち、「A評価」「B評価」の合計は100%となり、A評価の割合が前年より3.7%へ増加し2年連続の増加となった。

「教育課程の編成」は、「A評価」と「B評価」を合わせて96%となり、A評価の割合が前年より4%低下した。

「指導計画の作成」では、「A評価」と「B評価」を合わせて100%となったが、A評価の割合が前年より6%低下した。「環境の構成」の項目では、4項目の「A評価」と「B評価」を合わせてその平均は88.9%となり、前年より7.1%低下した。本園の教育課程を理解し、それに基づき保育計画を立てたり、幼児の発達に即して幼児期に相応しい活動を展開すること、幼児が主体的に関わりたくなるような素材や遊具を考え環境を構成することにおいて、未経験の年齢児を担当したことで見通しを立てにくかったと感じていたり準備不足を感じたことが挙げられている。経験を重ねることで知識を付け反省を活かすことで、「A評価」の割合を高めることに繋げていきたい。

「評価・反省」の項目では、「A評価」と「B評価」を合わせて94.3%となり「A評価」の割合は前年より8.6%増加したが、3年連続で100%となったところから減少し、「C評価」が増加した。反省したことを次の保育に生かし

改善に努めることが最も大切であり、全体的に今後に繋げようとしていることは窺えるので経験の浅い職員を全体でフォローしていく必要がある。

## II 保育のあり方、幼児への対応について

		A評価	B評価	C評価	D評価
健康と安全への配慮	園内に危険な箇所がないか、危険な遊び方はしていないか常に配慮し、危険が予測される時は安全な遊び方について幼児と一緒に考える	29.7%	64.9%	5.4%	0%
	園内の清掃や整理整頓、換気、採光、室温などに気を配る	35.1%	62.2%	2.7%	0%
幼児理解	個々の幼児の発達の姿や課題について、見通しをもって理解する	16.7%	75.0%	8.3%	0%
	幼児同士の関わりの姿を捉え、そこでの幼児の育ちを理解する	16.7%	80.6%	2.8%	0%
	幼児の理解のために家庭との連携をとる	14.7%	76.5%	8.8%	0%
指導と関わり	幼児の思いや考えに共感しながら、幼児と一緒に活動する	48.6%	51.4%	0%	0%
	幼児の話をよく聞いたり、スキンシップをとるようにする	56.8%	43.2%	0%	0%
	幼児が自ら考えたり工夫したりできるように見守り、行き詰まっているときには適切な援助をする	29.3%	68.3%	2.4%	0%
	幼児同士のトラブルに対し、適切な対応をするように心がける	36.1%	61.1%	2.8%	0%
保育者同士の協力・連携	クラスに関係なく、その場にいた保育者が適切な言葉かけや対応をするように心がける	35.1%	54.1%	10.8%	0%
	幼児のことについて保育者同士で話し合い、共通理解を図る	30.6%	66.7%	2.8%	0%

※数値の赤字は前年より減少、青字は前年より増加となります。

「健康と安全への配慮」の項目では、「A評価」と「C評価」の割合がともに若干増加した。職員の意識は高まっているものの、大きな怪我があったことを反省する。事故報告を受けての改善を意識し、更に「A評価」の割合が高くなるよう今後も徹底していきたい。

「幼児理解」では、「A評価」と「B評価」を合わせて平均93.4%であり、前年度より5.7%減少し「A評価」の割合も平均で6.6%減少した。個々の幼児の発達の姿や課題、幼児同士の関わりの姿について振り返ることで幼児理解を深めるように努めている。今後も“育ちのストーリー”を継続することで、全ての教職員が幼児一人一人の育ちを理解する力と課題について見通しをもって対応する力を高めていけるよう努めていく。

「指導と関わり」の項目では、前年とほぼ同様の結果となった。年々「A評価」の割合が増加してきており、職員が一人一人の子どもに丁寧に関わろうとしていることが窺える。

「保育者同士の協力・連携」の項目では、クラスに関係なくその場にいた保育者が適切な言葉かけや対応をするよう心掛けるについては、「A評価」の割合が前年度より9.3%減少し、幼児のことについて保育者同士で話し合い共通理解を図るについては、「A評価」の割合が前年度より9.9%増加する結果となった。様々な業務に対応する中で、保育者同士が話し合う時間を確保することに困難さを感じている職員もいるが、今年度は多くの職員が保育者同士、話し合える時間を確保しようと努力したことが窺える。今後は、シフトを調整することで話し合う時間の確保に努めていきたい。

### Ⅲ 保護者への対応について

		A評価	B評価	C評価	D評価
情報の発信と受信	保護者からの相談や要望には心を開いて、よく話を聞くように心がける	37.8%	59.5%	2.7%	0%
対応上の心がまえ	保護者からの依頼や伝言などについては、メモをするなどきちんと対応する	34.3%	62.9%	2.8%	0%
要望等への対処の仕方	要望等の内容によっては教職員全体で検討し、共通理解の上で対処する	39.4%	60.6%	0%	0%

※数値の赤字は前年より減少、青字は前年より増加となります。

「情報の発信と受信」では、前年度より「A評価」の割合が9.3%低下したものの、「A評価」と「B評価」の合計は前年度より3.2%増加した。「対応上の心がまえ」の項目では、「A評価」と「B評価」の割合は前年とほぼ同様であった。また、「要望等への対処の仕方」項目では、「A評価」の割合が前年度より18.2%増加した。全体的に保護者の皆さんの状況に応じて対応しようと心掛けていることが窺える。引き続き、保護者の皆さんに丁寧な対応を心掛け、「A評価」の割合を高めていきたい。

### Ⅳ 地域や自然や社会との関わり

		A評価	B評価	C評価	D評価
地域・自然・人々との関わり	地域の自然や主な施設の場所、交通機関、行事などについて理解するよう努める	10.0%	75.0%	15.0%	0%
小学校との連携	地域の小学校の行事や公開授業に参加するよう努める	16.7%	50.0%	33.3%	0%
子育て支援と地域への開放	保護者及び未就園家庭の子育ての支援や地域への開放に努めている	12.5%	50.0%	37.5%	0%

※数値の赤字は前年より減少、青字は前年より増加となります。

「地域・自然・人々との関わり」の項目では、「A評価」と「B評価」の合計は、前年度とほぼ同様となった。今年度も、園外にある公園に出掛けた際に地域の方々と触れ合ったり季節や自然を感じたりする機会が多く持てたと感じている。絵本の読み聞かせをしていただくボランティアの方々が来園していただく機会は通年で設定できた。また、アクティブシニアクラブの皆さんとの交流会も、2年続けて実施でき昨年度より多くの方々にご参加いただいた。今後も年度計画に組み入れ継続していきたい。

「**小学校との連携**」については、今年度から津市全域で取り組む『乳幼児期から小学校への連続した学び～津市の架け橋プログラム～』を、豊が丘・高野尾・大里小学校さんと大里保育園さんならびに本園と豊里中学校区にある保幼小が、年間5回のワーキング会議を本園で実施した。小学校の先生方や他園の保育者に、本園の保育参観をしていただき保育者の子どもたちへの関わり方について感想をお聞きする中で、大変嬉しい評価をいただいた。また、ワーキングでは、本園が実施している育ちのストーリーの手法を取り入れ、それぞれの園の幼児や小学校の児童のエピソード記録を持ち寄り、“幼児期の終わりまでに育って欲しい10の姿”を手がかりにした子どもたちの学びに向かう姿の読み取りを行ったところ、小学校教諭と保育者が共感することが多くあった。3学期には豊が丘小学校さんの1年生の授業に年長児が参加することができた。次年度以降の架け橋プログラムを通じて職員同士の学びが深まることを期待するとともに小学校との連携を一層進めていきたい。

「**子育て支援と地域への開放**」の項目では、「A評価」と「B評価」の合計が前年より7.5%低下し、「C評価」の割合が前年より7.5%増加した。今年度は、子育て支援として実施している“くまのみクラブ”の回数を減らし、同じく子育て支援として実施している“ホームクラス”はクラス数を増やすことで保育者の負担軽減を図った。保護者への子育て支援の必要性は年々増加しており、全ての職員が保護者の子育て支援について意識を持ち、「A評価」と「B評価」の割合を高めていけるよう取り組んでいきたい。

## V 研修と研究について

		A評価	B評価	C評価	D評価
研修・研究への 意欲・態度	研修会や研究会には自己の課題をもって参加する	22.6%	61.3%	16.1%	0%
	自分の保育のあり方や悩みについて、他の保育者や主任、園長に相談する	32.4%	55.9%	11.8%	0%

※数値の赤字は前年より減少、青字は前年より増加となります。

「**研修・研究への意欲・態度**」では、「A評価」の割合は前年度より5.4%増加し、「B評価」との合計では前年度より1.1%増加した。今年度は、オンラインで実施する専門分野15時間のキャリアアップ研修に昨年を上回る延べ29名の職員が参加したことに加え、発達支援に関する園外研修には正規職員に加えてパート職員にも積極的に参加してもらい、園外研修時間は前年比で26%増加の558時間となった。園内研修では、毎月の研修に加えて、外部より専門講師を招聘しアレルギー対応研修会を実施したところ、正規・パート職員26名が参加した。これらの研修の一つが自らの学びに繋がると感じており、研修への意欲は年々向上していることが窺える。次年度以降、更に「A評価」の割合が高まり職員の資質の向上に繋がるよう研修の機会を増やしていきたい。

「自分の保育のあり方や悩みについて、他の保育者や主任、園長に相談しているか」の問いには、「A評価」の割合が前年より10.5%増加し「B評価」との合計は前年度より10.1%増加した。引き続き、全ての職員が何でも相談できるような体制を整えていく。

## 2024年度 教職員の自己評価について の良かった点及び改善点

### I 保育の計画性

#### 指導計画の作成

- ・子どもたちが楽しい雰囲気の中で安心して遊び込める環境を同じクラスの職員間で考え行うことができ良かった。来年度は新年度が始まる前から、特に、自分が担当する年齢の、園の年間指導計画をしっかりと把握して1年間取り組んでいきたいと思う。
- ・初めての2歳児担任で戸惑うことも多かったが、子ども達にとって保育園は家と同じかそれ以上の時間を過ごす場所なので、どんな時でも楽しく安心できる場所になるよう意識した。そのためにも、定期的に担任間で保育を振り返り、意見を出し合ったりアドバイスを頂いたりしながら日々の保育を進めていった。
- ・年間を通して見通しを持ち、このぐらいの時期にはこのような姿になっていけるようにと考え、日々の保育を積み重ねていくことで、個々の成長を見極めつつ無理なく取り組むことができた。
- ・月齢によって成長に個人差あったが、一人一人に応じて保育を計画したり環境を設定することができた。
- ・1歳児担任で月案、週案、日案など含め、子ども達にどのような経験をさせてあげたいかを話し合うことができた。
- ・計画を事前にたてることで、先の見通しをもって、日々の保育や準備ができた。
- ・計画をたてようとしても、まだ決まっていないことや直前までわからないことがあったり、たてた直後に変更があったりして、その場その場の対応に追われることがあった。特に行事においては、年間行事予定を作成する際にある程度のことは決定してもらえるといいと思う。
- ・3歳児の担任が初めての中で、1年の見通しが自分の中でうまくできず、目の前のことを対応することに精一杯になっていた。年少担任で月案を作成し、1か月の計画を立てていたが、後回しになることが多く、後手後手に物事がすすみ、自分のクラスだけ余裕がない状況になっていたことがあった。今後はスケジュール管理の仕方をもう一度考え、改良して一日一日をより考えて保育をしていきたい。
- ・学年で月案を考え、参考に保育をしてきたが、今までの良かった点はそのまま続けていき、子ども達一人ひとりへの目標や学年での目標をしっかりと決め、発達の段階を考えて計画していきたい。
- ・経験を活かして見通しをもって計画を立ててはいるが、計画性があまく想定外のことがあった時の対応に反省することもあった。もっとクラス補助や学年でも話し合い、細かいところまでしっかりと計画したり、想定外のことも臨機応変に対応できる力をつけたい。
- ・リーダーの保育者と1年間相談して計画をたてることが出来たように感じている。
- ・前年度の月案集を作成したことで、学年の月ごとの「予想される子どもの姿」、「経験してほしいこと」を見通しをもって計画しやすかった。来年度も月案集があると毎月の月案など効率的に作成できると思うのと、毎年度作成することで「子ども理解」がより深まればいいと思う。
- ・支援計画の作成を通し、自らの反省や支援の在り方を見直す機会となった。だが、この反省を次に生かしてきれていないので、支援計画を定期的に見返して、反省をいかせるようにしていく。

- ・子どもたちの「つぶやき」や遊びのアイデアを職員間で共有する。週案・月案作成時に、観察記録を十分に活用し、子どもたちの興味・関心により即した保育計画を立てる。遊び場面での気づきを、より意図的・計画的に設定保育にも取り入れていく。
- ・保育の計画については同じクラスの職員同士で話し合いながら行っていくことができたと思う。環境設定についても、制作や音楽などお互いの得意なことを活かしながら行えたと思う。保育園舎では2歳児クラスが2つあるが、保育室が離れていることもあり、お互いの保育の様子が分かりづらくお互いに連携を取っていくことや保育等について話し合いを行う時間を設定することが難しい時もあったので今後の課題だと思った。
- ・しっかりしていて、準備などもとてもやりやすく、しっかり保育できたと思います。

### 環境の構成

- ・時間配分ミスや準備不足でクラスが落ち着かない状況になることもあったため、隙間時間を楽しく過ごせるようなアイテムを複数用意したり一日の流れやその週の流れに見通しを持って準備をしたりすることを意識していきたい。
- ・毎日楽しく遊べるように子どもたちはどんな物に興味があるのかを理解し、玩具を変えて環境設定に取り組んだ。
- ・日々の保育の中で子どもたちの「つぶやき」や遊びの様子を意識的に観察・記録することで、子どもの興味・関心に沿った活動展開ができた。遊びの時間を重視し、子どもたち一人ひとりの遊びの傾向や発達の様子を丁寧に観察することで、より適切な環境構成や活動設定につなげることができた。子どもたちが笑顔で登園してくれて、安心して遊べる環境をつくれたことは良かったと思う。
- ・主体的に関わりたくなるような、自ら遊びを展開できるよう、担任と話をしながら環境を整えている。幼児が何を求めているか声を掛け、その都度しっかり耳を傾け、理解しながら遊びの空間作りをしている。
- ・その時々に関心・興味のあるものを準備するよう心がけ、分散して遊べるようになり、遊び込む姿や子ども同士の関わりも増え、相手を思いやる心が芽生えてきた。
- ・天候や季節、行事に合わせた教材の準備を心掛け、子どもたちの要望にできるだけ応じることができた。型抜きや紙棒など、家で作成することが多かったが、子どもたちと一緒に作成していきたいと思う。
- ・クラスの子どもが毎日保育園に行きたいと思えるような遊びや活動を考えて保育をすることができたと思う。職員同士で話し合っ、子どもたちに合わせた生活を取り入れて散歩に行ったり、室内での遊びを充実することができた。
- ・その日の天候などを考えつつ、室内での活動が楽しめるよう空き箱やいろいろな種類の紙など用意し取り組めるようにしました。
- ・分からないことも多かったが、学年でよく話し合っ、保育を進めていけたと感じる。主体的に関わりたくなるような素材や遊具、自ら活動を展開していけるような場や空間については、振り返るともっと意識できたのではないかと感じるため、今後の課題である。
- ・子どもたちの遊ぶ姿を見て、保育室の設定をもっと安全に遊び込めるように環境の作り方を学ぶ必要があると感じた。
- ・前日までの子どもたちとのコミュニケーションをもとに環境設定や準備を心がけたが、準備不足の時もあった。いつでも子どもたちが好きなあそびをやりたい時に、すぐにできる環境を整えられるようにし

ていきたい。

- ・子どもたちにも何がやりたいかも尋ね、一緒に用意していくことも大切だと思いました。

#### 評価・反省

- ・日々の保育の反省点を、その都度保育者同士で話し合っただけに活かしている。
- ・計画を立てることはないが、クラスに入る際には必ず一日の保育計画を聞いて色々と自分に出来ることや見通しをもって担任がスムーズに保育が進めれるよう準備や子どもたちへの声掛けを心がけている。特に配慮の必要な園児が多いクラスには、担任が保育に集中できるように活動における準備やお手伝いを積極的にするようにしてきた。結果トラブルは以前よりも少なくなっているように思う。雑用をお手伝いできる存在が、各学年に毎日いる（いない日もあるので）といいなと思う。子どもたちのためにも、保育士のためにも配置人数以上の保育士が理想であると思う。
- ・学年の保育者同士話し合いながら、進めることができた。複数担任のため、月の計画をその月担当の保育者が責任をもって計画を出し、それをもとに学年の共通理解のもと進めることができた。遅番、子ども対応時に、学年での打ち合わせや話し合いがあり、知らない間に話がすすんでいることがあった。伝え忘れが無いように伝える人を確認し、確実に伝えるようにする。
- ・計画していた保育内容が、天候により変更が予想されると想定するにもかかわらず、準備が当日になってしまった。
- ・食事・睡眠・排泄等、発達に応じた関わりができた。月齢が大きくなるにつれ自分でできるように、保育者と一緒にやる気が持てるように関わった。
- ・クラスの担任間で、子どもの成長に合わせて「沢山歩けるようになってきたから〇〇公園に行ってみよう」「集団遊びをそろそろ取り入れてみよう」などの話し合いができ、保育の中に取り入れていくことが出来た。2歳児のトイレトレーニングの進め方やフォーク・スプーンの3点持ちへの移行の仕方をもっと詳しく知っておくべきだった。
- ・初めての1歳児クラス、同じ空間で2クラスの日々の活動、行事に戸惑うこともあったが、クラス・学年、各子どもの成長、特性に合わせた計画を担任間で話し合いながら進めることができたと思う。
- ・職員同士コミュニケーションをとりながら、先の見通しを立てて保育する事ができたと思う。コミュニケーションがとりやすい関係性が築けたことが良かった。行事中心の保育にならず、遊びの時間の確保も連携をとっていったと思っている。
- ・ホームクラスで絵本、手遊び、ゲーム等を取り入れるようにしています。お迎えの際、挨拶を英語で言うように心がけています。皆さん、とっても上手に言えるようになり、とても嬉しく思います。
- ・主の先生が立てた保育計画を元に、子どもの姿に合わせて事前に保育の流れなど担任同士で話し合うことで連携しあって保育していった。予定外の事や、緊急時、急な対応が必要な時も落ち着いて動けるよう、普段から話し合い共通理解を深めていきたい。
- ・日々、担任から一日の活動の予定を知らせてもらったり、月間の計画案をもらったりして、自分の中でイメージしやすいところが良かった。
- ・担任と子どもの様子を伝え合っただけ、その子にどのような対応をしていくか話し合っただけはいるが、なかなか時間が取れず、じっくり話し合いができない。じっくりと子どもと関われる時間が欲しい。子どもをほめる言葉、子どもに考えさせる言葉、分かりやすい言葉などその時に応じて子どもへの言葉掛けに気を付けた。
- ・子どもたちをよく観察し、興味のあることをうまく保育の中に組み込んでいく。

## II 保育のあり方、幼児への対応について

### 健康と安全への配慮

- ・園内で危険な箇所を見つけたら改善し、常に配慮し、保育者同士で声を掛け合い、この一年大きな怪我もなく過ごす事ができた。
- ・遊具の遊び方については、大きな事故がきっかけとなり、年齢が高くなっても安全面に十分配慮しなければならないと改めて感じた。
- ・共感したり、一緒に活動することはできていたが、危険な箇所や遊びについては、もっと注意深く考える必要があると感じた。

### 幼児理解／指導と関わり

- ・一人一人の子どもの思いや考えに共感しながら過ごしたり、話をよく聞きスキンシップをたくさんとったりするように心がけて保育できよかったと思う。
- ・クラスの担任間で、たくさん話し合い、共通理解を図りながら日々過ごせたように思う。
- ・その子に会った言葉がけや、接し方を心掛け接しスキンシップをたくさんとって安心して過ごせるようにしている。話ができない子どもたちに代わって、言葉で代弁し寄り添える保育をこれからも続けていきたい。
- ・新入進級当初は特に、保育者を介して遊んだり友だちと関わったりする時期だったので、それぞれの子どもが安心して遊べるよう心掛け、時には遊びが広がるような声を掛けることを意識していた。最近では、子ども達同士で「こうしよう!」「ここはこうじゃないかな?」など遊び込んでいる姿も見られるようになってきたので、必要以上に関わらず近くで見守ることも意識している。
- ・生活や遊びの中で概ねこの時期にはこういうことをしていきたいと保育計画を基に進めていく中で、個々の成長度合いや、今興味を持っている事、楽しんでいる事を常に意識しそれぞれに合ったタイミングを見極め自分でやってみよう、やってみたいなどの自発的な意欲に繋げていくような関わりを心掛けている。子ども達から「自分でやってみるわ」の声が聞かれたり、その子なりの考える力が身につけてきて嬉しく感じている。
- ・個人の発達を考えて、一人一人に合わせた言葉掛けや配慮を心掛けて子どもたちと関わる事ができたと思う。挨拶やスキンシップを通して、子どもたちと信頼関係を築く事ができた。
- ・子どもの気持ちを受け止め、スキンシップを大事にした。
- ・「〇〇したらだめ」という言葉を使うのではなく、なるべく子どもがやる気になる言葉がけをしようと働き始めから決めていたので、意識して子どもに言葉がけをできた。2歳児はまだ自分の気持ちを言葉で上手に伝えることが難しく、言葉よりも先に手が出てしまう子どももいたので、怪我がないように常に子どもたちの様子を把握しておく必要があることから、「先生遊ぼう」と誘われても遊びながら周りの子どもも見ているので、じっくりと目の前の子どもと集中して遊ぶことがあまりできなかった。
- ・クラスに入った際に子ども同士のトラブルがあった場合は、0歳児や1歳児に関しては子どもの気持ちになって一緒に考えたり言葉で話せない分保育者が代弁をしてあげたり、2歳児は子ども同士の話を聞いてどうしてそうなったのかを一緒に考えたりした。
- ・担当している年齢に応じて活動や遊びを考え、進めるようにした。子ども達が家庭と同じように安心して過ごしながらも、集団生活でしか経験できないことや友だちとの関わり方などを知ることができるよ

う心掛けながら保育に努めた。

- ・3歳児は初めての幼稚園生活で、園での過ごし方を一から教えることに対して、自分の知識の浅さや伝え方の難しさに直面した。その分、時間をかけて一人ひとりに関わり、手伝うさじ加減を成長に合わせて変えるなどできることからしていた。
- ・こどもを中心の視点で環境を日々考えたり、朝の受け入れ時には余裕をもって関わる時間が持てる様な対応を心掛けた。複数担任のありがたさを感じているが、日々の保育を振り返って話し合う時間が確保出来ていないのが現実。
- ・「一日先生」など日々の当番以外の活動を設けることで、クラスでの活動などが保育者主導ではなく子ども主導で活動できる時間が増えた。その分、今までとは違う子ども目線の保育を客観的に感じる事ができた。
- ・子どもをほめる言葉、子どもに考えさせる言葉、分かりやすい言葉などその時に応じて子どもへの言葉掛けに気を付けた。
- ・大人の都合の保育にならないよう、子どもの目線で保育をしていく事を心がけていった。引き続き子どもの思いに寄り添い、個々の成長段階に合わせた関わりをし、一人一人の成長につなげていきたい。
- ・子どもたちの話をよく聞いて、一人一人の気持ちを受けとめ、一人一人にあった対応ができるように心がけた。子どもたちが安心して園生活を送ることができるよう、たくさんスキンシップをとるようにした。
- ・子どもたちとコミュニケーションやスキンシップをとりながら、関係づくりをすることができました。今後は発達の課題や成長の見通しを持ち、適切な対応をとれるように努めます。
- ・子どもへの支援については、活動やその子の状況によって考えながら支援することを心掛け、どのような支援をしたら良いかを常に頭におきながら支援できた。
- ・同じ状況でも、必ずしも同じ支援の仕方ではうまくいかない時もあり、難しさを感じた。様々な支援の仕方を試したり、勉強してその時々に適した柔軟な対応ができるようにしたい。
- ・子どもたちからの遊びの誘いにはしっかり応えようと思いますが、保護者対応で待たせてしまう事が多々あり、きちんと関わっていけるようにしていきたいと思います。
- ・家庭的なホッとできる雰囲気づくりを心掛け、縦割り保育の利点を生かしつつ、一人一人にしっかりと向き合っていく。
- ・一人一人の気持ちに寄り添い、想いを受けとめながら丁寧に話を聞くなどし、信頼関係を深めていった。そして、クラス全体に話す時もこちらの思いを明確に伝える事でしっかり注目し落ち着いた姿勢で話を聞くことができるようになった。
- ・手遊びやペープサート等、季節や行事に合わせて子どもたちが無理なく注目したり集中したりできるようにした。個々の気持ちに寄り添い、自ら考えたり反省したり思いやったりできるような言葉掛けを配慮して行った。もっともっとゆったり子どもたちの思いを受けとめることができるように自分自身、心のゆとりを持っていきたい。

#### **保育者同士の協力・連携**

- ・今年度は保育園の2歳児クラスが2クラスとなり、保育室が離れていたため、2クラスの担任間で話し合いをする時間を作るのが難しく感じたので、時間を上手く使って工夫をするなど心がけるとよかった。

- ・同じクラスの職員同士で保育を行っていく中での困り感や戸惑いなどがあっても、しっかりと話し合ったり相談したりしながら一人一人にあった保育を考えていくことができたと思う。
- ・フリー保育士なので、どの学年にも配属される。よって、積極的に担任に子どもたちの発達状況を聞いたりクラスの方向性を共有できるようにしてきたつもりです。ただクラスによっては、考え方に温度差があるのを感じたので対応に困ることもあるのが実情であるが、どのように今過ごしているのかを再度聞いて現状の様子を見ながら保育に関わってきた。
- ・気になる保育場面に対して、職員間で話し合い、改善に向けて積極的に行動を起こすことができました。学年での話し合いを通じて、不適切保育について認識を深め、子どもの最善を考えた保育を実践しようと努めました。感情的になることを避け、冷静に目の前の子どもと向き合うよう心がけることができました。
- ・子どもへの言葉がけについて
  - ・一人一人の名前を丁寧に呼び、子どもの存在を大切にする。
  - 発達段階に応じた、温かく分かりやすい言葉で接する。
  - 命令口調を避け、子どもの気持ちに寄り添った表現を使う。
  - 介助方法について子どものペースを尊重し、急かすことなく待つ姿勢を持つ「できること」「やろうとしていること」を認め、励ます
  - 強制的な介助を避け、子どもの自主性を引き出す関わりを工夫する。
  - 保育者間の連携について、気になる場面を見かけた際は、互いに建設的な助言ができる関係づくりを進める。
  - 会議や学年会議で、支援方法の共有と検討を行う。
  - これらの改善策を具体的に実践していくことで、子ども一人ひとりの人権を尊重した、より良い保育の実現を目指します。また、乳児保育特有の課題について理解を深め、専門性の向上に努めていきます。
- ・今年度の受けもちが低年齢児だったこともあり、保育とは何か？という基本に立ち返ることができた。0歳から5歳まで、成長がつながっていくことを、日々子どもたちの成長から実感した。まず土台がしっかりしているからこそ、その後の成長に繋がっていくことを踏まえ、しっかり子どもたちと向き合っていくことが大切。子ども達に分かりやすい言葉、温かみのある愛のある関わりで伝えることが大切。一人一人に人権があり、その子の個性を大切に育みながら保育にあたっていく。保育者同士で子どもたちの育ちを話し合いながら連携し、子どもたちをみんなで見ていく体制をとっていく。
- ・担任同士の気持ちの行き違いがあり、それをその場で解決するために話し合うことをしなかったため、気持ちの中でモヤモヤ感が生まれギクシャクした期間があった。その後、話し合いの場を設け、互いの気持ちを話し今後の保育に対する方向性などを確認し合った。
- ・発達段階に差がある子どもたちにどのように接することが一番良いのかを日々考えながら保育を進めた。担任間で共通認識を持ち方向性を確認しながらできたと思う。これからも一人一人の個性を大切にじっくり関わる保育を心掛けたい。
- ・人数に対しての保育者の数は足りているが、その中で個別の援助を必要とする子が数人いることで、じっくりと関わるのが難しいこともあった。フリー保育者が増えるとゆとりが生まれるのではと思う。
- ・子どもたち一人一人の発達や性格にあった声掛けや援助をしっかりと考えて接していきたい。
- ・今まで他クラスとの交流が少なかったため、交流がもてるように環境を設定していきたい。

- ・日々の子どもの姿や成長を副担任や学年で話し合いをしていくように心がけた。今後も子どもたちの成長した面や悩んでいることなどを話し合い共有して職員全体で子ども一人一人の成長と一緒に考えて保育につなげていきたい。
- ・担任と子どもの様子を伝え合って、その子にどのような対応をしていくか話し合っているが、なかなか時間が取れず、じっくり話し合いができない。じっくりと子どもと関われる時間が欲しい。
- ・直接伝達がなく、たまたま情報が入って知ることがあり迷うことがあった。幼児への対応について、迷うことがあれば相談して対応できる環境であると感じた。
- ・担任や他の補助の保育者と子どもの姿を確認しあって、今後の関わり方を共有できたことは良かったと思う。しかし、なかなかその時間を確保することが難しい。
- ・困り感のある幼児の姿を担任と話し合い、方向性を決めていくことで一貫した対応ができた。話し合う時間がなかなかないのでそういった場がある方がよりよい保育ができたように思う。

### Ⅲ 保護者への対応について

#### 情報の発信と受信／対応上の心がまえ

- ・保育者からの相談は、気持ちに共感しながら話をよく聴くように心がけた。また、相談の内容は、どうしていくとよいかを担任同士で話し合い日々の保育で心がけた。また、解決できない内容などは上司の先生にも相談できよかった。
- ・早番と遅番どちらも利用している子どもの保護者とは、どうしても関わる機会が少なくもどかしい思いもあったが、機会があった時には園での子どもの様子を伝えたり家庭での様子を聞いたり積極的にコミュニケーションをとるようにした。また、保護者から相談を受けた際には、自分なりに真摯に対応をしたのちに担任間で共有し、時にはフォローをして頂きながら保護者との信頼関係を築いていくようにした。
- ・登園、降園時にその日の出来事を伝えたり、おうちでの様子を教えてもらい家庭と保育園とで共有し、その子についてより理解することができた。クラス以外の子にも挨拶をしたり、話しかけたりすることで子どもや保護者の方とも会話が増えて信頼関係を築けるようにしている。
- ・子どもの様子を具体的なエピソードを交えて丁寧に伝えることができました。
- ・日々の子ども達の姿を伝え、子ども達の成長を共に喜び合ったり、悩みを相談し合ったりして深く共通理解することができた。子どもの日々の悩みを、保護者と共有し、担任と共に話しあいながらその子にとってどのような育ちが見られ、関わり方が出来るかを語りあうことができた。
- ・保護者からのクレーム等はなかったが、噛みつき、ひっかきなど怪我が多く その都度誠意をもって謝罪した。
- ・ストーリーを作成することについて、幼稚園舎と保育園舎で書き方の違いがあったり、細かいルールがあったりで戸惑うことが多くあったが、渡した際に喜んでくださる保護者の方が多く嬉しかった。
- ・子どもの成長を共に喜び合うとともに気になる点や子育ての悩みをしっかりと聞き、時にはアドバイスを提案して信頼関係を築くよう心掛けているつもりだが、気になる点についての話は保護者の受け止め方や子育てに対する思いもあるので伝える難しさを感じることもある。保護者の方からは、しっかり見ていただいてありがとうございますなどの言葉をいただいているが、こちらの伝えたいことが先走らぬよう相手の立場に立って考えることを忘れてはならないと自分に言い聞かせて対応するよう

にしている。

- ・未就園児の会での保護者対応では、顔なじみになってきた保護者には相談を聞いたり少し踏み込んでお話ができるようになってきた。月に一度の会なので、ぐいぐい行かず様子を見ながら声を適宜かけるようにしてコミュニケーションをはかるように心がけている。
- ・保護者との情報共有をさらに充実させるため、コドモンでの文書コミュニケーションの質を向上させる。保育者間で情報共有を密にし、どの職員でも保護者からの質問や相談に適切に対応できるよう、園内研修や職員会議で情報共有する。これらの改善策を実行することで、より一層保護者との信頼関係を深め、子どもの健やかな成長を共に支えていける環境づくりを目指していく。
- ・自分一人で対応できない時は、他の先生にも助けて頂きながら連携して対応できたと思う。お迎えの際に保護者の方と会話をすることで、園での姿や家庭での様子をお互いに共有することができた。
- ・保育園は毎日保護者の方と会うことができるので、今日あったことや子どもの面白かったエピソードを保護者の方と沢山共有することができました。保護者の方からも「家で先生のことが大好きとお話してくれます」と言って頂けることが多く、私自身も保護者の方の話を聞いて微笑ましく感じるが多かったです。怪我をした時の状況説明で、分かりやすく伝えなくてはと思い、詳しく話し過ぎてしまい、先生から指導をして頂くこともあったので、怪我の伝え方などについてもっと詳しく学んでいく。
- ・バス登園・降園の子や、ホームクラスを利用している子は、保護者となかなか顔を合わせることがないので、連絡帳や電話での対応となり、伝えにくいと感じることもあった。改善策はこまめに伝えていくことかと思うが、日々の業務や当番等があり、なかなか難しいのが現状である。
- ・ホームクラスに入っていないとなかなか保護者と話すことができないが、直接伝えたいことはできるだけ顔を見て伝えるようにした。ドキュメンテーションも多く配信できたかは分からないが、普段の様子に保護者の方が喜んでくれた。
- ・一人一人の保護者と話す機会を増やそうと、自ら声をかけることを意識していた。懇談会は、話をたくさん聞くことを大切にしていた。育ちのストーリーをきっかけに、園での子どもの様子を伝えたり、保護者の悩みに対して園で似たようなエピソードを使って話をするようにしていた。改善点としては、一日一日の子どもの様子を伝えられることができるように、子どもの観察を一人一人より多くして、毎日のお迎えの際にすぐに子どもの姿を伝えることができるようにしていきたい。
- ・朝の受け入れ、降園のときに、子どもの体調や様子を伝え、安心していただけるように心掛けた。至らないところもあったと思うが、保護者の方のご協力のお陰で、子どもたちの成長を共に喜べたことが嬉しかった。
- ・送迎時での口頭で子どもの様子や成長した面などを伝えたり、家庭での様子を聞いたりしながら子どもの成長と一緒に見守れるように心がけている。しかし、保護者がもつ悩みに対して適した返答が難しいときもあるため、副園長や他の保育者に相談している。もっと適切な対応ができるように知識や接し方を知っていきたい。
- ・排泄のことや食事のことなど園での様子を保育者に伝え、園と家庭で一緒に取り組めるように心がけている。
- ・どんな事でも話しやすい、接しやすい保育者であるよう、普段から積極的に保護者と関わり、信頼関係を築いていくようにしていきたい。担当外の保護者とは関わりがほぼないので、挨拶など積極的にしていきたい、担当外の保護者との関わりも大切にしていきたい。

- ・保護者の方の話は、しっかりと聞き、丁寧に対応してこれたと思う。今後も保護者の方が安心して、お子さんと一緒に楽しく通っていただけるように丁寧に対応していきたい。
- ・学童と兼務をしている都合上、幼稚園の保護者と話す機会はそう多くありませんが、子どもたちが家庭で話をしてくれていることも感じます。直接お話しできないからこそ、自分自身の言動に責任を持ちたいです。
- ・保護者の方に質問されたことで分からない事はあやふやにせず、事務的な事は事務担当者に、クラスの事は担任の先生に聞き、正確なお答えができるようにしたが、聞く間に保護者の方をお待たせしてしまったので、行事の持ち物等のことでコドモンを見たりして分かることは目を通し、聞かれたら答えられるようにしておきたい。
- ・補助という立場上、保護者の方とお話しする機会は少ないが、送迎の際に気になることを伺った時は安易に自己判断せず、担任に伝えるようにしている。
- ・その日の子どもの様子をしっかりと伝えるよう心がけていました。伝えなければいけないことは、忘れてしまわないようメモに書いていましたが、忘れてしまう事があったので伝え忘れの無いよう目に付くところに貼っておくようにしていこうと思います。
- ・保護者からの相談や質問に対してメモを取り、担任職員になるべく早く正確に伝える事が大切だと学んだ。
- ・丁寧な挨拶と笑顔で対応し、その日のお子さんの様子や遊びの内容を伝え、成長がみられた時は心から喜びを分かち合う。
- ・挨拶や遊びの様子、伝達事項などを丁寧に伝え、保護者の話にも耳を傾け話しやすい雰囲気を作り、安心してホームクラスを利用してもらえるよう努めた。
- ・全ての保護者に対して明るく元気に対応することを心掛け挨拶したり声掛けしたりすることができたと思う。どんなことでも気になったことや不安、心配に思ったことは相談してもらえるように常に声を掛けた。子どもたちの素敵な言動は必ずお伝えして共に成長を喜び合えるようにした。更に丁寧に関わっていきたい。
- ・毎日顔を合わせてコミュニケーションをとることができる保護者と、そうでない保護者の差が大きくあった。コドモンのドキュメンテーション機能で、日々のクラスの様子を配信して伝える努力はしているものの、なかなか十分ではなく、不安な思いを持たせてしまったと思う。
- ・毎日の登降園時に声をかけることで、保護者の方が声をかけやすい状況をつくってきたつもりだった。しかし、ホームクラスの当番中などでじっくり話せない状況の時が多々あった。早朝から6時まで常に子ども達が生活している中で子どもの遊びの保証、安全面の配慮をしながらの対応をどのようにしていくのか見直していきたい。
- ・日頃から子どもの姿を伝えるのはもちろん、特に懇談会ではその子の良いところだけでなく、課題点も保護者の方と伝え合い、互いに子どものためにできることを共有してきた。こちらの保育や子どもとの関わり方を温かく見守っていただいたことも、とてもありがたく、子どもたちのために保育をすることができた。

#### **要望への対処の仕方**

- ・子育てについて話を聞く中で、家庭や仕事の悩みが子育ての悩みに関係していると感じ相談窓口につながった事でより適切なアドバイスをしてもらうことができた。

- ・子どもの生活リズム改善策や、食に対して今後どのように対応していくかなど、個別に声を掛け 保護者と一緒に改善策を話し合う場を設けた。

#### IV 地域や自然や社会との関わり

##### 地域・自然・人々との関わり

- ・近くの公園へよく遊びに行き、春には桜の下でたくさん遊んだり、秋にはどんぐり拾いをしたり、この地域の四季折々の自然の良さを子どもたちと一緒に存分に感じ取ることができた。また、散歩の途中で地域の方々からもよく声をかけて頂き、子どもたちと一緒に挨拶をする等の関わりがあり嬉しく思った。
- ・保育園舎にてボランティアの方が子どもたちと一緒に花を植えてくださりとてもよかった。
- ・当園は芝生広場や探検の森などの豊かな自然環境に恵まれており、子どもたちが日常的に自然と触れ合える環境を活かすことができました。散歩の際には地域の方々との自然な交流が生まれ、挨拶を交わしたり会話を楽しんだりする機会が多くありました。特に子どもたちが自ら手を振るなど、積極的なコミュニケーションを取る姿が見られ、地域との良好な関係性を築くことができました。
- ・芝生広場横を工事し、今後地域に開放していくことで、地域の憩いの場所となっていくことは素敵だと思う。地域に開かれたこども園であり続けて欲しい。
- ・園外保育を通して地域の方とも関わりを持つことができたと思う。
- ・低年齢児の子でも遊べる遊具がある公園が、園近くには少ないように思うので、今後増えていくと、もっと園外に出かける機会や気持ちが増えていくのではと思う。
- ・地域のシニアの方々との交流は、子どもたちにとってとても貴重な経験になったと思う。挨拶を交わしたり、花育やお話会で教えてもらえる知識が子どもたちの成長に繋がっていくと感じた。
- ・アクティブシニアさんとの交流は、子ども達が何より楽しんで参加していて、良い時間がもてたと思っている。
- ・絵本のおはなし会やアクティブシニアさんにお世話になった。おはなし会では、子どもたちから「また来てね！」と声をかけにいたり、ハイタッチを求めにいたりする様子がみられ身近な存在になってきているように感じられ嬉しく思った。
- ・地域の方との絵本の読み聞かせによる交流は、子どもたちにとっていろんな絵本にふれることができ良かった。“もっと読んで”と笑顔が溢れ、楽しく貴重な時間となっている。
- ・散歩中、目にする花や虫など、保育者の言葉がけで、より興味関心を持てるようにしていけた。子どもの疑問にこたえられるように、知識を増やしていきたい。

##### 小学校との連携

- ・小学校との交流では就学の近い時期に一年生との交流をさせていただき、その中で授業の雰囲気を感じさせてもらった。その年によって内容は違うが、一年生と一緒に遊ぶ時間もいいが、今回のように一年生をサポートしてもらいながらの授業は年長の子にとっては小学校での様子を身近に感じる事ができ、とても有意義な時間になった。一年生にとっても、自信につながった時間になったと思う。ただ、毎年の課題が普段の交流ができていないこと。互いにそれぞれの時間の流れがあり、時間をとるのは難しいところはあるが、小学校の休み時間を利用するなど方法はあるのかなと思う。そのためには互いにアプローチしていく必要がある。また、5年生（次年度の6年生）との交流もできたらいいなと感じている。

- ・年長児は小学校へ行く機会があり、小学校がどんなところなのか知ることが子どもたちにとって不安を減らし、楽しみもできて良かったと思う。

## V 研修と研究について

### 研修・研究への意欲・態度

- ・研修に参加させて頂くたびに、日々の保育の振り返りと反省ができとても勉強になった。学んだことを毎日の保育で活かしていきたいと思う。
- ・日々の保育の様々な場面で悩んだり迷ったりすることがあったが、その都度担任間やフリー保育者などに意見を聞き、実践と振り返りを繰り返すようにしていた。
- ・園内研修でクラスの困りごとを話し、他のクラスの先生方から意見をいただくことで、保育のいろんな考え方を知ることができ、自分にはない新たな保育の考え方を知ることができて良かったと思う。また、ストーリーの書き方についても検討する機会があったが、いろんな先生の意見を聞くことで“こんな見方もあるのか！”と新たな発見につながった。今後もいろんなストーリーの書き方や保育内容など、いろんな先生から学ぶことができると良いなと思った。
- ・研修を受けることで、改めて自分の保育を見直す機会になったり、新しい学びや発見をすることが出来るので良い機会だと感じている。
- ・研修などには参加できなかったが、年齢にあった保育のことや遊び、手作りおもちゃなど調べて実践できた。来年度は、研修にも力を入れていきたい。
- ・アレルギー研修は、とつても実りある研修であった。なんとなく・・・というふわっとしていることが実地を交えて学ぶことでより自分の知識を深めることができたので、参加して良かった。  
おやつを選ぶ際にも、当該児が解除になるまで気を張りつめて献立をたてていた。かなりの慎重さをもって対応している。クラス担任や副園長の二重三重のチェックをして取り組んできた。年度途中で解除となり、何もなく安全に提供できたのでほっとしました。
- ・園内研修やキャリアアップ研修に参加し、保育の専門性を高める機会を得ることができました。これらの研修を通じて、保育の質の向上に向けた新たな知識や技術を学ぶことができました。
- ・より良い保育環境づくりのために、自分にできることから取り組んでいきたいと思います。今後の目標として、研修機会を活用して保育の専門性を高めていきます。職員間のコミュニケーションを大切にし、互いに学び合える関係性を築いていきたいと思います。一職員として、建設的な意見を積極的に発信していけるよう努めます。
- ・園内研修で、クラス、学年で悩んでいることや、教えてほしいことなどを取り上げ、話し合いを深めることができた。子どもたちの行動には必ず意味があり、それを職員間で話し合うことで子どもの発達や生活の背景が見えてくる。子ども達の成長段階における成長の一つとして捉え見守っていくのか、その子を取り巻く・置かれている背景が原因なのか話し合うことができた。今後も、研修を通して本質を見る力を養っていきたい。
- ・エピペンの研修を受けて、改めて大事なことを再確認できたと思う。今後も、いろんな研修を受けて自分の学びに繋げていきたい。オンラインの研修を家に持ち帰って受講していたので、勤務中に研修をする時間を頂けるとありがたいです。
- ・研修はキャリアアップ研修以外に2回参加させていただいた。今の自分に必要な研修内容だったことで

とても勉強になった。

- ・研修することで、自分の保育を反省したり、新しい発見もあり、保育に活かすことができた。新しい知識やスキルを習得し、自分が成長できるようにしていきたい。
- ・一年目だったので、新人研修を受けさせて頂く機会が多く、講義だけでなくグループワークも多かった。日々の保育の悩みを共有したり、他の園での取り組みを知ったりなど、実りある研修になりました。キャリアアップ研修では、2歳児の担任をしているので乳児保育について学びたくて、自分の知っていたことについても学べたので、日々の保育や子どもとの関わり方について見直す良い機会になりました。
- ・園内研修では事例をみながら先生方の意見、アドバイスを聞くことができとても勉強になった。また振り返りを話し合う時間も研修で共有できたことがよかった。Web研修は自分自身のタイミングで受講することができ今後の保育に参考になった。
- ・業務終了後や休日を利用しての研修は、平日の業務への負担になると思う。代休がない研修もあり、自分のスキルアップのためとはいえ保育者の負担が増えるものではなく、軽減となるように何らかの対応はしてほしい。
- ・保育防災やエピペンなど、特に興味のある内容の研修に参加することができた。保育防災については、普段の避難訓練での意識や設定の重大さを感じた。いつ起こるか分からないからこそ、いつ起きてもいいように備えることが大切だと改めて感じた。エピペンに関しては使い方などわからないことが多かったため、実践も含めとてもいい経験になった。
- ・1学期終了後、他の職員の育ちのストーリーの書き方や向き合い方に対して、自分の力不足を感じる機会があったため、他の職員のストーリーを見たり、話を聞いたりして、2学期のストーリーへの取り組み方を工夫してみた。研修に関しては、必要最低限しか参加できずに、反省点である。来年は幼児関連の資格を取ろうと思います。
- ・様々な保育者の意見や考え方を知るきっかけになった。話しやすい雰囲気作りが必要な気がしていて重い空気の中での研修は少し辛かった。保育の遊びを広げる研修などもあればいいなと感じている。
- ・「子ども理解」をテーマにたくさんのことを先生同士で学び合った。「育ちのストーリー」を研修の内容にあてたことで今までより積極的になれた。そして、自分の悩み、今つまづいていることをみんなで一緒に考え合える場になりストーリー作成を一人でしていない気がして気持ちに余裕が以前よりできてきた。研修は、担任を持つ先生だけが中心になるが他の先生も研修に参加できたらもっと共通して「子ども理解」が深まると感じた。
- ・今年も15時間の研修を受けました。家でゆったり受ける事が出来てとても良かったです。来年も同じかたちで続けて欲しいです。
- ・研修会へ積極的に参加したいとは思っているが、都合でなかなか参加できないのが現状。悩みや相談は親しい同僚にしている。管理職への相談は、面談回数が以前より減り、話す機会も少なくなり、現場は疲弊しているように感じることもある。
- ・研修会やセミナーに積極的に参加し、知識や考えを深める事ができた。今後も学んだ事を保育に活かせるよう積極的に参加していきたい。
- ・日々の保育の中で、よく目にする子どもの姿への支援の仕方をとても分かりやすく教えていただき、とても勉強になった。日々の保育に活かしていきたい。

- ・初めて幼稚園で働くにあたって、目にすることや起きること全てが学びとなった一年でした。研修も毎日の保育も課題を持って業務にあたりたいです。
- ・非正規職員に対し、園側から園外での研修を勧めてくれたので参加しやすかった。また大勢で参加でき、同じことを学べたことが良かった。
- ・今年度研修に行くことはなかったが、保育の中で悩んだり、困ったりした時は周りの職員に相談したり、ネットや本で調べたりしながら保育に取り組んできた。
- ・実際の保育現場での対応に悩んでいることを一つでも解決できるよう成長したいと思い参加することができた。最初は他の保育者に相談することができずにいたが、今は周りの保育者に相談することの大切さがわかるようになった。
- ・なかなか研修会に参加する機会が無いので、秋の研修会に声を掛けてもらい大変勉強になりました。パートでも参加できる研修会があれば、声を掛けてもらえるとありがたいです。
- ・参加できなかった研修の内容を保育の打合せ時に資料に目を通しながら伝えてもらうことで、先生方の意見交換も参考になり自分自身のスキルアップに繋がっていきました。